

今日のみ言葉 230 「命の水を与え、涙をぬぐい去る主」 (黙示録7の17)

2013. 8. 11

玉座の中央におられる小羊（キリスト）が彼らの牧者となり、  
命の水の泉へ導き、  
神が彼らの目から涙をことごとく  
ぬぐわれる。(黙示録7の17より)

The Lamb who is at the heart of the throne will be their shepherd and will guide them to springs of living water; and God will wipe away all tears from their eyes.

迫害のなか耐え忍んで御国へと召された人たちがそこでどのような恵みを受けるだろうか。それが、この聖句で言われている。復活のいのちを受けた人たちのいる天の国は、地上のあらゆる苦しみや悲しみがすべて消し去られ、キリストによって永遠の命の泉のわき出るところへと導かれる。

命の水、それは神が私たちに与える最高の賜物である。永遠の命とは、神のもっておられる命である。地上のあらゆるものがみな時間とともに失われ、財宝や地位、名誉などは、新たな対立やねたみを生み出すのと違って、そうした一切の汚れが存在しない永遠の賜物である。

自然のままの人間は持つことができない変ることなき真実や、いかなることによっても汚されることのない清さ、美しさ、それらも、神の国のいのちの水の中に含まれている。

地上においては、人は、さまざまの悲しみに直面する。言葉にできない深い悲しみ、それはただだまって涙を流すだけでしか表せない。

こうした魂に深く食い入り、そのまま魂を枯らしてしまうような悲しみが、根底から取り除かれるときがくるということをすでにイエスよりも何百年も昔の預言者は啓示されていた。

…主は永久に死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐわれる。

(イザヤ 25:8より)

私たちは、神から流れ出るいのちの水を飲んで初めて、深い悲しみもいやされる。そのような人間世界の悲しみがいやされることは、主イエスも山上の教えにて示されたのであった。

…ああ、幸いだ。悲しむ者たちは！

なぜならその人たちは、(神によって) 慰められるからである。(マタイ5の4)

悲しみは、そこから神へのまなざしを向けるとき、命の水の深い味わいを与えられ、神の国へと通じる道となる。



これは、福島県の標高2000m級の山々が連なる吾妻山にある鎌沼一沼というより山上の湖という感のある一の周辺に咲いているコバイケイソウです。この野草は、本州中部以北、北海道に分布し、深山や亜高山の湿った場所に生えるもので、四国や近畿の山では見ることのできないものです。高さは1mほどになり、小さいバイケイソウという意味。バイケイソウは、日本各地の山地にあるけれども、花はこのコバイケイソウが大きく豊かで美しい光景となるので、夏の高山の代表的な花の一つとして知られています。

この写真は、鎌沼の一部で、鎌状に広がっています。標高が高いため、真夏であっても肌寒く感じられる風が吹きわたっていました。ほとんど人も通らないこの付近は、そのこの世から隔離したような静けさと風景ゆえに、天上の湖という感を与えました。今でこそ、福島西インターから車で40分ほどで達する登山基地となっている駐車場から、1時間半ほど登ると、この地に達することができますが、車道ができる以前は、ふもとから5~6時間もかけて登ってはじめて目にする光景だったのです。

高山にある湖、その上を吹きわたる風は、いのちの水と風であり、じっさい疲れた心身をいやしてくれる天来の賜物として感じられました。

こうした水、そして花、風は人間の造ったものでなく、人間よりはるか昔からあったもの一神の直接の御手によりて創造されたものゆえ、こうしたものに心身を浸すことで、神の御手のうちに置かれているという気持ちでした。

自然というものは、私たちが適切に交わるときには、つねにそこから清い力、また美しさに触れて心身がリフレッシュされるものです。人間世界とはまったく異なる清い世界だからです。この写真からも、そうした天来の風と水を少しでも感じることができるようにと願っています。(文・写真 T. YOSHIMURA)